

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1275300083
法人名	特定非営利活動法人緑の風
事業所名	グループホームこもれび
所在地	〒289-0611 千葉県香取郡東庄町新宿2272-3 (電話) 0478-86-3772

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年3月31日
評価確定日	4月27日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	6 人
常勤2人, 非常勤8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他	食費42,000,水道光熱費15,000,理美容代,オムツ代など	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合	償却の有無	
食材料費	朝食	330 円	昼食	380 円
	夕食	530 円	おやつ	160 円
	または1日当たり 1,400 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	6 名	男性	3 名	女性	3 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	61 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東庄病院 ほり医院
---------	-----------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR成田線下総橋駅から車で約10分のところにあり、周辺は静かな農村地帯である。広い敷地の中に木造平屋の建物が建っており、1ユニット6人定員の小規模なホームである。「家族の心、家族の目線での共同生活」との活動理念が管理者、職員に共有され、入居者の表情は穏やかで温かな雰囲気を表している。一人ひとりの個性・要望をていねいに読み取り、日常のケアを行っている。大事にケアがされている反面、そのケアの記録化や、事故や災害のマニュアル作成などが課題になっている。また、今後入居者の重度化に備え、ボランティアの協力を求めるなど、地域に開かれ、地域に支えられるホームとなるための取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の休憩室は別棟に設けられた。外部研修へも職員が参加できる体制ができた。男性用カミソリは安全な電動カミソリに変更された。感染症マニュアルは、職員が常時見られるようリビングに置かれている。以上が前回評価に対して取組んだ事項である。引き続き取組みが期待される点は、職員間のミーティング内容の記録化、事故や災害対策マニュアルの整備、地域との交流、地域への働きかけである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事前に、職員全員に自己評価の用紙が配布され、意見を反映している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族、行政担当者、ご近所の人等を構成員として開催を予定したが、実施できなかった。3月中に開催予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時に要望等を聞くよう働きかけている。毎月の費用の支払い、家族がホームに来るようになっており、家族の意向を把握ようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常の散歩の時には、近所の人に声をかけてもらうなどの交流はある。町内会に入っており、担当者が会費の徴収に来ている。町の年1回のお祭りには、見に出かけている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	リビングや玄関、廊下には「利用者一人一人が、中心であり主役です。家族の心、家族の目線での共同生活です。」という理念が、理事長直筆による額で掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のケアの中で、管理者・職員が理念を共有し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時に近所の人々が声をかけてくれる。また地元のお祭りを見に行ったりしている。地域の人を招待したり、地域行事に参加することは出来ない。		地元のボランティアの協力を求めたり、ホームの行事にご近所の人を招待するなど、地域の人との交流を深めることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事前に自己評価票を配布し、職員全員で作成している。これにより、改善点を明確にしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を予定していたが、開催に至っていない。3月中に開催予定である。		地域との交流を進めるため、また地域の情報を得るためにも開催を定例化することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは、書類のやり取りをおし日常的に接触している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、費用の支払いのために、家族が来所するしくみになっている。この時や、随時の面会時に報告している。その他ホームの様子や職員の異動、制度の改正等についての連絡を郵送で知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情は今までないが、面会時に要望等を聞くようにしている。今後家族への満足度調査アンケートも検討している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が比較的軽度の人が多く、職員の名前等を覚えているので職員が離職しても、「体調が悪く休んでいる」等と時間をかけ説明し、異動による入居者のダメージを和らげている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に職員を参加させている。また管理者は率先して、理念をケアの実務に生かし職員に示している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロックのグループホーム研修会に参加している。その中で情報交換したり、日常的に意見交換をし、助け合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居当初の1週間間は、職員が入居者と1対1でかわり、ホームでの生活に慣れるようにしている。入居前に使用していた品々を家族と相談して持ち込めるように働きかけているが、持ち込む人はあまりいない。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>草花の手入れや、畑仕事などを、入居者に声をかけ一緒に活動している。食事の後片付けや洗濯物たたみなども一緒に行っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者との会話を多く持ち、その会話の中から入居者が今望んでいること、やりたいことなどを把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を立てる際には、本人や家族に要望などを聞き、また職員にも現在の生活状況などを聞いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>2月からケアマネジャーが配置され、職員の意見を聞きながら、6ヶ月に1度の割合で介護計画の見直しを行っている。</p>		<p>高齢者の心身の状態は変化しやすいため、見直しはもう少し頻繁に、3ヶ月に1回程度は行うことが期待される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2tuki					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者本人の希望を取り入れながら、状況の変化に応じて活動や介護を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人が今まで通っていた病院になるべく継続して通院できるように配慮している。夜間や休日にも対応できる病院との提携を検討している。		周辺病院の受入れ体制を細かく把握し、夜間・休日や緊急時に確実に診てもらえるようにすることが望まれる。また、より高度な治療が必要となった場合に備え、専門医の確保をしておくことさらに安心と思われる。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の入居者は比較的軽度の状態なので、あまり実感として必要性を感じていない。		入居者の重度化を想定し、終末期のあり方について、ホームの基本的な考え方・方針を作成することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねることの無いよう一人ひとりに丁寧に関わるよう努めている。個人の所有物や記録などについても大切に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を聞きながら、毎日入居者の希望になるべく添えるような生活を送れるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。また入居者の嗜好や嚥下力に応じてメニューや調理方法を変えている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっており、入浴の順番などについてもできるだけ入居者の希望に添えるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や買い物に積極的に出かけることを支援している。また入居者が希望すれば料理や後片付けを手伝ってもらうこともある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて散歩や買い物に出かけている。また、春には花見に出かけるなど季節を感じられる場所へ出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、ホームの出入りが自由にできる。扉の開閉時に音が鳴るようになっており、それによって入居者の出入りを職員が把握できるようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害等の場合には、隣の水資源公園に協力を依頼しているが、避難方法や緊急時の対応は決まっていない。		火災、災害などがあった場合の避難方法、対応についてマニュアルを作成することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分量は個人記録により記録し、把握に努めている。摂取量が少ない場合には提供する飲み物や食事を変えて十分な量を摂取できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で明るく、快適に過ごせるように配慮している。		居間と居住スペースの間の廊下の温度差を少なくすることが望まれる。また、廊下にも絵や写真など親しみのあるものの掲示があるとさらによいと思われる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の要望に応じて使い慣れたもの、好みのものの持ち込みをしてもらっている。また要望があればすぐに対応できるような体制がある。		